

会 議 録				
令和3年度第1回 生活支援事業協議体	日 時	令和3年6月1日(火) 14時00分～16時00分	場 所	前原暫定集会施設 A会議室(オンライン での開催)
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出 席 者	委 員	高良委員長(法政大学) 石塚委員(社会福祉協議会) 小島委員(社会福祉協議会) 榎本委員(介護事業者連絡会) 尾崎委員(民生委員児童委員協議会) 武田委員(地域貢献活動をする者) 村越委員(町会・自治会)		
	事務局	第2層コーディネーター 星野氏(小金井きた地域包括支援センター) 金子氏(小金井ひがし地域包括支援センター) 吉田氏(小金井みなみ地域包括支援センター) 雨宮氏(小金井にし地域包括支援センター) 第1層コーディネーター 菊地原氏(小金井市 介護福祉課) 平岡氏、濱松氏、田村氏(介護福祉課)		
傍聴の可否	◎可・一部不可・不可	傍聴者数		
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 委員自己紹介				
(2) 委員長選出				
(3) 生活支援体制整備事業について				
(4) 第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について				
(5) 報告事項				
① 前回協議体からの進捗等 (第2層協議体報告・令和2年度応援マップの作成等)				
② 生活支援コーディネーター活動報告(4月分)				

③ 令和2年度各地域包括支援センター活動報告

④ 令和3年度各地域包括支援センター活動目標

3 検討事項

地域課題の抽出について

4 その他

次回協議体の開催予定

5 閉会

1 開会

(田村包括支援係主任)

開会挨拶。

資料確認。

オンライン開催、会議録録音について説明

(平岡高齢福祉担当課長)

挨拶

2 議題

(1) 委員自己紹介

(2) 委員長選出

(3) 生活支援体制整備事業について

(4) 第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について

(5) 報告事項

① 前回協議体からの進捗等

② 生活支援コーディネーター活動報告(4月分)

③ 令和2年度各地域包括支援センター活動報告

④ 令和3年度各地域包括支援センター活動目標

(1) 委員自己紹介

各委員挨拶

(2) 委員長選出

互選により高良委員長選出。

高良委員長挨拶。

(3)生活支援体制整備事業について

(田村包括支援係主任)

生活支援体制整備事業は、地域包括ケアシステムの推進のために実施される事業の1つであり、地域の実情に合った医療・介護・予防・住まい・生活支援が具体的に提供される体制を目指している。

地域住民が主体となった生活支援・介護予防サービスの充実として、近所などの身近な人たちとの声かけや歩いて気軽に行けるサロンやカフェなどの通いの場の存在、筋力が落ちてきたり、痛みによる家事などが大変になってきたら家事援助や配食など、1人で外出するのが大変になったら外出支援や移動販売、食材配達などのサービスなどが挙げられる。このような支援・サービスを住民や地域の民間主体で進めていくことがこの事業の主な目的になっている。

この事業を進めていくために生活支援コーディネーターと協議体が設置されている。

事業を進めるに当たって目指す地域像を以下のように今年の協議体で決定した。

お互いさまからつながる地域づくり
～住民主体のいきがいのあるまちをつくろう～

(4)第8期の介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画について

(濱松包括支援係長)

本年3月に第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画として市で策定した。

本市の人口は現時点で12万人ちょっとだが、令和13年の12万7000人をピークに緩やかに減少していくと見られている。高齢化率については、計画期間中は21%～22%程度で推移しているが、将来的には全国的なトレンドと同じように上昇していくことが見込まれ小金井市も高齢化は避けられないことになっている。

小金井市の高齢者人口が約2万数千人、うち市内の介護認定者数は約5,000人おり2割程度の方が要介護・要支援認定を受けている。2割の中でも、要支援1～要介護1の軽度の方が認定を受けている方のうち約半分を占めるとというのが本市の特徴といえる。認定のない高齢者の8割の方、また認定がついている軽度の方についても支援や介護が必要な状況に悪化させずに今の生活を保つために必要な支援を充実させていくことが本市の場合には重要になっている。

(5)報告

①前回協議体からの進捗等

(菊地原介護福祉課職員)

「NEW」と書かれたものについて説明。

通いの場再開説明会。「感染に留意しながら活動を再開するために」という説明会を実施した。3日間にわたって計6回説明会を行い、39団体計46名の方の参加があった。現在、約6割～7割くらいで活動を再開している。

2層協議体について従来行っていた小地域ケア会議というスタイルを変え、昨年度は1層協議体から出た地域課題を地域に持ち帰り、各圏域で2層協議体を実施した。

ひがしは、さくら体操の管理会場の社会医学技術学院の活動場所について課題を抱えており来年度の活動について協議体を実施した。結果、公共施設での活動は月に1～2回、ほかの会場で月1回というイレギュラーな活動のため、また2層協議体を実施しながら参加者さんの意見を吸い上げていくという形になった。

にしでは、感染のリスクから屋外での活動に目を向け、青空ラジオ体操として新たなグループ立ち上げを行った。ラジオ体操協会の協力もあり参加者も増えている。コロナ禍ではあるが、屋外の活動として新たなグループの立ち上げができた。

みなみは、さくら体操会場の第4小学校の貸出しができなくなるという課題があり、今後の活動場所について検討した。代替となるような場所の情報提供をしたことで、活動再開に向けて前向きになり、様々な課題も全て解決した。

きたは、オンラインに挑戦した。Zoom体験会を行い実際に操作を覚えて自らオンラインで参加できるようになった方もいた。現在は街角Zoomコミュニティーという新たなグループとして月1回オンラインによるおしゃべりの活動を続けている。

今までと違い小さな集団で明確な課題に対して協議をすることで有意義な協議となった。

応援マップについて、写真付きの応援マップを圏域別に作成した。応援マップの紹介と生活支援コーディネーターの紹介を含めて、市役所出入口の風除室にて応援マップのパネル展示を行った。今年度は年内完成をめどに写真付きのフルカラー版で応援ブックを作成する予定でいる。コーディネーターからはCOCOBASの情報を入れてみてはどうかというような意見が出ている。応援ブックにこんな情報があったらいいなというものがあれば、ぜひ意見を頂きたい。

(高良委員長)

コロナ禍であるが、人々と会うことの意義や、外での活動、新たな活動につながれたりかつ新たなものをつくっている。

応援ブックについてはどういうふうな情報などアイデアがあれば連絡をして欲しい。

②生活支援コーディネーター活動報告(4月分)

(菊地原介護福祉課職員)

明確な地域課題を把握するために、会議に参加した記録を初め、地域活動団体に訪問した際の参加者さんからの声なども聞き取り、日々包括に入る総合相談などの生活

支援に関わるような課題について記録している。時間があるときに構いませんので、目を通していただきたい。

(高良委員長)

蓄積していくことによって、この中から本当に何があるのか、地域課題としてどういふことがあるのか、対応しなければいけないこととしてどうなのかというところを把握できるようになると思う。

③「令和2年度各地域包括支援センター活動報告」

④「令和3年度各地域包括支援センター活動目標」

(金子氏)

昨年度は地域課題と考えられる課題として、担い手が不足している、情報が行き届いていないを挙げ、活動した。地域のサロン情報の案内から介護予防に関わる内容や熱中症予防、防火防災などの有益な情報を掲載した情報紙に変更をして配布した。活動団体への支援は、市役所と社協と協同して通いの場再開説明会を行い、顔を合わせて意見交換や情報交換を行うことができた。2層協議体は活動参加者の皆さんの意見表出の場として多様な意見交換を行った。情報発信については、応援マップの作成・配布、道草市に参加し多世代の方に対して情報発信を行うことができた。

令和3年度の活動目標は、総合相談や2層協議体から抽出した。昨年はコロナ禍で地域の団体さんや関係機関の方々と会う機会がなかったため、関係性の再構築を目指したい。

(雨宮氏)

新しいスタイルの居場所ということで、屋外での体操、青空ラジオ体操を立ち上げることができた。一部のグループではリモートによるさくら体操も実施している。あと新たなスタイルとしてカフェを応援マップに掲載した。筋力低下を防ぐ手だてを考え「てくてくマップ」を配布した。

令和3年度に関しては引き続き居場所の選択肢を広げること、また紙媒体での情報提供、新たにICT情報通信技術の活用も考えていきたい。

(高良委員長)

コロナだからこそその気づき、視点の転換、リモート、屋外もできるよということに気づき、しっかりとそれを実践していて素晴らしいと思う。

(吉田氏)

令和2年度の課題として身寄りのない高齢者の支援、情報を必要としている人に必要な情報が届いていない、住民同士のつながりが少ない、途中からコロナ禍での高齢者の孤立を課題に加えた。地域包括ニュースを配布して、地域の中に情報が少しずつ行き渡るようになってきた。地域活動としては、4小のさくら体操の活動が活動場所を変えて活動ができるようになった。

令和3年度は、身寄りのない高齢者から孤立しがちな高齢者の支援とした。息子さんや娘さんのところに市外から市内に転居してきてお友達がいなくて行く場所がなく孤立している事例があった。包括ニュースも情報を充実させ孤立しがちな高齢者に届けることをしている。高齢者に情報が届けられるところをつくらせている紙媒体にプラスICTのような技術を加えて情報をハイブリッドにしていくような連携を作っていきたい。

(高良委員長)

包括ニュースの継続、情報発信プラスコロナにおける対応をしっかりとこなしている。孤立は特にコロナにおいては、非常に重要な視点だと思う。

(星野氏)

令和2年度はコロナウイルスに関して通いの場の減少が一番の課題だった。体操などは人数を分けて行い、サロンについては少ない人数で、お茶菓子を無くしたり歌も控えるなどして活動している。

11月頃から少しオンラインに注目したが、オンラインとなると抵抗感があって興味が持ちづらいということが分かった。そのためリアルとオンラインと分けて考えた。オンラインができる人を地域で増やそうと民生委員の方が主体となり街角Zoomコミュニティという新しいグループができた。リアルのほうはウォーキングをしながらおしゃべりを楽しむ歩こう会というものを開催している。

(高良委員長)

街角Zoomコミュニティはどのような活動か。

(星野氏)

自己紹介、近況報告を行い、初めて来た人にとっては自分がどういう活動をしていて、どういうことを知りたいと言える場になっている。

3 検討事項

地域課題の抽出について

(田村包括支援係主任)

各圏域から出た課題から、キーワードを集めて、マトリックスに落とししていきたい。

(作業)

(高良委員長)

こんな課題があるのではないかとということで挙げていただきたい。

(石塚委員)

多様な人たちが集まれる居場所とそれを支えていくリーダーが重要なのではないか。

(尾崎委員)

情報の取得が非常に大事なのかなと思う。

(榎本委員)

元気な高齢者の方の活躍の場をつくるためにも「情報」「つながり」というキーワードが大事だと思う。

(高良委員長)

お元気な高齢者の方々のというのは社会参加のほうか、マンパワーが不足しているほうが課題と捉えているか。

(榎本委員)

認知機能が落ちてきてしまった高齢者の方は家から出て何かにつながるというのはすごく難しい。そのような方に対して元気な高齢者の方に活躍していただけるようなきっかけがあるとよいのではないか。

(小島委員)

気軽に相談できる場所、秘密を守ってもらえるようなところ。ICTの得意な若者の力みたいなものがあるといい。

(村越委員)

高齢者にだけでなく、若い人でもボランティアをしてくれる人はいる。なにかやりがいや協力することでメリットのようなものがあるといいのではないか。

(高良委員長)

挙げていただいたものはほとんどの方が納得できるものではないか。あえて言うならば、ちょっとした手助けがいっぱい入っている。多分それはどっち方面から見るかだと思う。それをちょっとした手助けという書き方をするのか、元気な高齢者の方がやってくれるとか、若い方がやってくれたときにそれをリワードとして何らかのメリットがというふうな言い方もできると思う。多分同じことを表しているのではないか。

(尾崎委員)

小金井市は子供達、小中学校の生徒にはボランティアのこきんちゃんスタンプというものをやっている。

(高良委員長)

動機づけプラスやりがいを感じられるような仕組みについて検討できるのではないかな。

(榎本委員)

ボランティアポイントとつながっていくといいと思う。介護保険の事業は法律的に介護保険ではやってはいけないものが結構明確に決められてその辺が難しい。

(高良委員長)

今回はまだ地域課題の把握の段階だが、次回の協議体では今のところも含めて具体的にどのように対応していくことができるのかということをもた一緒に検討したい。

小金井市の生活支援体制整備事業として検討していく地域課題として検討するに当たり、地域でできること、包括が中心になってやったほうがいいこと、社会福祉協議会が得意なこと、行政でないというような対応のレベルも含めて検討したい。

(星野氏)

若者とICTのところで学生のボランティアとの連携ができないか考えているがかわり方がわからない。みなさまの力を借りたい。

(高良委員長)

地域をつくっていく中で誰もが住みやすい状況をつくっていくうえで小中高校生、学生もいかに巻き込んでいくことは非常に重要な視点。

(石塚委員)

情報が集まってくる場所をどういうふうにつくれるかというのが1つ大事なのではないかな。

(高良委員長)

情報とICT、若者という関連について検討という意見がでた。ほかにあるか。

(榎本委員)

高齢者の方が具体的に何が一番困っているのか民生委員さんなどから伺いたい。

(高良委員長)

時間がないためまたそれは次回に。地域課題と考えるとすると、例えば高齢者の方の困り事を具体的に把握するというのが1つのあげられる。

(田村包括支援係主任)

皆さんから挙げた課題について事務局から一覧にしたもの次回共有したい。次回の協議体なのでこの中から取り組むべき課題についてもうちよつと検討して決めたい。

(高良委員長)

今日は地域課題の把握、今後、次回協議体でより一段と理解を深めながらどれに対して対応していくのかを検討する機会としたい。

4 その他

次回協議体の開催予定

(田村包括支援係主任)

次回の協議体の開催についてなのですが、10月上旬を予定している。

5 閉会